

## <令和6年3月定例記者会見>

### 1 開催日時

令和6年3月6日（水）午前10時～午前11時

### 2 場所

滝沢市役所 庁議室

### 3 来庁した報道機関

岩手ケーブルテレビジョン、盛岡タイムス社、朝日新聞社、岩手めんこいテレビ、朝日新聞社、岩手日報社

### 4 発表事項

#### (1) 滝沢ミライプロジェクト2023最終成果発表会について（若者活躍推進室）

滝沢市では、3月9日（土）に若者と地域をつなぐプレゼンイベント「滝沢ミライプロジェクト2023」の最終成果発表会を開催します。

このプロジェクトは、会計年度任用職員として雇用している学生アルバイトが企画し、運営しているもので、地域に興味を持つ学生に、地域づくり活動に関わる機会を提供することにより、若者が地域の方々とつながり、滝沢市へ愛着をもち、自らの視点を取り入れ活躍する場を創出することを目指し、11月に始動し活動しています。

参加する大学生は、地域で活動する方々と交流し、地域の課題を聞いた後、「イベント」「子ども幸福」「情報発信」の3チームにわかれ、取り組むテーマを決定しました。

その後、地域の方から意見を聞いたり、アドバイスを受けたりしながら、地域に対する提案を「想い」としてまとめるため、チームごとに話し合いを重ねています。

最終成果発表会は、共催いただいている滝沢市自治会連合会 の自治会役員研修会の中で行われ、学生がチームごとに、地域の皆さんへ「想い」を届けます。

当日は、一般の方も自由に観覧することができますので、どうぞお越しください。

#### (2) 盛岡大学・盛岡大学短期大学部と滝沢市との包括的連携に関する協定について（若者活躍推進室）

滝沢市では、盛岡大学・盛岡大学短期大学部と本市とで、包括的連携に関する協定を新たに締結することといたしました。

盛岡大学様は、文学部、栄養科学部の2学部5学科、盛岡大学短期大学部様は1学科からなる歴史ある総合大学として、広い視野と高い見識を養い、文化の向上と社会の福祉に貢献する人材を育成しておられます。

また、大学・短期大学部の持つ知的・人的・物的資源を活用して地域貢献に取り組まれており、これまでも公開講座をはじめとする様々な事業を展開されています。近年では、多くの学生の皆様に滝沢市の小中学校で学習支援を行うラーニングサポーターとしてご活躍いただいております。

この協定は、平成25年度に締結した包括的連携締結協定の連携事項を精査することにより、両機関がこれまで以上に連携し、協力関係を深めていくことができるのではないかとこの共通する思いに至り、地域の課題に適切に対応し、誰もが幸福を実感できる活力に満ちた地域社会の形成と発展に寄与することを目的として新たに締結する協定です。

今後、盛岡大学・盛岡大学短期大学部との連携によるリカレント教育を推進していくとともに、市の各部門においても連携による事業を展開していきたいと考えています。

### (3) 日本酒「ばっぱれ」の新発売について（地域づくり推進課、観光物産課）

ビッグルフ滝沢の指定管理者である「まるっと滝沢プロジェクト」の3社において、自主事業の一環として滝沢の日本酒「ばっぱれ」を企画・発売いたしました。

これは、代表企業であるファンスペース株式会社が企画、一般社団法人ひだまり農園がチャグチャグ馬コ使用馬のたい肥を使いながら馬耕により育てた「あきたこまち」の提供、そして、一般社団法人スタディ協会がデザインを担当し実現いたしました。製造は紫波酒造となっております。

例年、「チャグチャグ馬コ大行進の当日は必ず晴れる」という言い伝えがあることから、「あっぱれ」と「馬」を掛け合わせた名前となっており、季節に合わせた限定酒も年に数回リリースされます。

皆様も是非、滝沢の風土が感じられるこのお酒をお楽しみください。

## 5 市発表案件について記者からの当日質問

記者：「ばっぱれ」について今回どうして会見での発表に至ったのかを教えてください。

地域づくり推進課長：まずビッグルフは市の施設であり、その指定管理者の事業ではありますが、馬をテーマにした「滝沢らしさ」を感じる事業であることから、市としてもこの場を借りてPRするものです。

記者：市長からも一言いただけますか。

市長：チャグチャグ馬コの馬が田を耕して、代かきをし、窒素成分が低く土にゆっくりと浸透していく馬のたい肥を使った、やさしさあふれる滝沢市産のお米からお酒ができました。滝沢のお米から、杜氏（とうじ）さんはじめ様々な方々が思いを込めて仕込んでくれたお酒を、市民が楽しむ機会が増えればいいなと思っています。

記者：今後はお土産品としてという話がありましたが、どのようにお考えですか。

市長：ふるさと納税の返礼品などを考えています。滝沢市には酒蔵はないですが、原料をしっかりと作って、様々な方と連携しながらこうしたお酒を提供できることはとても幸せなことと思います。

記者：「ばっぱれ」はすでに発売していますか。

ビッグルフ滝沢施設長：2月8日に発売しています。

記者：販売者は、まるっと滝沢プロジェクトという三者による共同事業体でよいですか。

ビッグルフ滝沢施設長：そうです。ただ、お酒のラベルに記載してある「販売者」としては、表示法で法人格を持っている者と決まっていますので、Fun space(株)が代表として名前を掲載しています。お酒をつくるにあたっては、3者が連携して進めた事業となります。

記者：あきたこまちを酒米の代わりに使用していて、それが滝沢市産の米であり、栽培したのは（一社）ひだまり農園ということで合っていますか。

ビッグルフ滝沢施設長：そうです。

記者：（一社）ひだまり農園が生産したあきたこまちが100%ですか。

ビッグルーフ滝沢施設長：100%です。

記者：販売先は主にどこですか。

ビッグルーフ滝沢施設長：現時点ではたきざわキッチン(ビッグルーフ内産直)のみです。

記者：ふるさと納税の返礼品としての展開はこれからですか。

ビッグルーフ滝沢施設長：手続きは済んでおり、現在審査中となっています。それが終わり次第の反映となります。

記者：市長から味や特長などについていただけますでしょうか。

市長：すっきりとした飲み口が特長です。常温はもちろん、冷やして、またはこれから花見の時期にも合わせて、爛でもおいしいと思います。ラベルに使われている字から、馬に対する愛着や、チャグチャグ馬コなどいろんなことが連想できる素敵なラベルになっています。様々な場面でこのお酒が活かされればいいなと思っています。

記者：「ばっばれ」は、通年で販売されるのは「火入れ」と「純米吟醸」の2種類で合っていますか。

ビッグルーフ滝沢施設長：そうです。純米吟醸酒を一本作って、その中で生酒のタイプと火入れのタイプとを作っています。

記者：その生酒のタイプだけは冬季限定ということですね。

ビッグルーフ滝沢施設長：そうです。冬のお酒という形での販売になります。

記者：先ほど講評いただいたこのお酒について現在5種類あると思いますが、一番おすすめはありますか。

市長：私はうすにごりが口当たりがよかったと思っています。爛にはできませんでしたが、爛にしてもしっかりと味が残るんじゃないかと思っています。特にも、純米吟醸もキレがよく、とてもいい感じでした。様々な温度帯で楽しめるお酒になったなという印象です。

記者：ラベルの漢字はあまり見たことがないですが、作字でしょうか。

ビッグルーフ滝沢施設長：そうです。「ばっばれ」の由来としては、お酒のテーマを馬にしたことで、チャグチャグ馬コの当日は晴れること、年に一度の晴れ舞台であることを考え、「はれ」という言葉を使いたいということになりました。また、滝沢の馬事文化について、少々苦戦している現状を元気付けたいことから「あっばれ」という漢字を調べた際に「天晴」「適」という漢字が出てきました。その中で、1文字に名前を収めたいという思いもあり、「適」の「南」を「馬」に変えて、呼び名も馬が連想できるように「ばっばれ」としました。

記者：今は冬季限定のお酒が出ていると思いますが、四季に応じて限定のお酒を出す予定ということですか。

ビッグルーフ滝沢施設長：春になりましたら春のお酒、夏のお酒、というように四季に応じて、限定のお酒の展開を考えています。

記者：限定酒は720mlのみの販売ですか。

ビッグルーフ滝沢施設長：300mlもあったのですが、完売してしまったので、現在限定酒は720mlのみの販売です。

記者：ミライプロジェクトについて、関わった学生は全部で何人になりますか。

経済産業部長：13人です。「こども」「幸福」「情報発信」と3つのテーマがありそれぞれ

4人、4人、5人の計13人の学生が関わっています。

記者：学生はみなさん会計年度任用職員ですか。

経済産業部長：違います。発案・企画をしたのは会計年度任用職員である学生アルバイトですが、実際に関わっている皆さんはサークルや興味のある人など、つながりの中で参加いただいたものです。

若者活躍推進室担当：企画・運営をした会計年度任用職員が2人おり、参加者の13人の中にも会計年度任用職員が1人います。ですので、企画・運営の2人を足すと、全部で15人の学生が関わり、うち3人が会計年度任用職員ということになります。

記者：来年度も同様の取り組みは継続予定ですか。

経済産業部長：この取り組みは継続する予定です。

## 6 その他記者からの当日質問

記者：年度内最後の会見かと思いますが、今年度の総括・振り返りと、来年度に向けた所感をお願いします。

市長：令和5年度は、総合計画を定めるために市民の皆さんの様々な声を聴く機会がありました。その中で、滝沢市の特徴としておぼろげに見えていたものがはっきりと見えてきたという印象があります。あわせて、市民のみなさんからいただいた新たな提案であったり、小学生から大学生までの子供たちからいただいた言葉は、自分が市政を進めていく上での大事な宝になったと感じています。1月1日に市制10周年を迎え、新たな総合計画も決まり、新たな歴史をつくっていくためのスタートを切れる準備が整ったと思っています。まずは滝沢市の長をさらに伸ばしながら、コロナ禍で失われた人と人とのかかわりを再構築しながら、新たな展開を模索し、これからの新たな滝沢を市民の皆さんと一緒に作っていきたいと思っています。